

2013年7月21日。

東京武道館で第21回全関東空手道選手権大会が開催されました。
横浜北支部からは選手17名が出場し、5名が入賞しました。

小学5年生40kg超級 優勝 多久田和馬



全国大会、国際大会を連覇している絶対王者が磐石の優勝。

今大会は更なるレベルアップ目指して重量級に出場

リミットギリギリまで増量して出場したが、トーナメントでは多久田が最も小柄だった。

だが試合では相手を圧倒するほどのスピードと破壊力で勝ち上がる。

決勝戦では延長戦にもつれ込んだが、終盤で跳び上段回し蹴りで技ありを奪い優勝を決めた。

延長戦の終盤で大技を決められるのは猛稽古をしてきた証。

慢心という言葉を知らない王者に死角はない。

小学6年生40kg超級 優勝 菅和志



「吊選手にファインプレー無し《

という言葉がスポーツ界にある。

本当の吊選手ならばあらゆる自分を事前にキャッチして堅実に処理するから、傍目にはファインプレーには見えない。いつもギリギリのファインプレーを見せる選手は本当の吊選手ではないという意味だ。

今回、関東大会を初めて制した菅和志はそんな吊選手といえるだろう。

初戦から慌てず堅実な組手で危なげなく勝ち上がる姿は王者の風格を漂わせる。

決勝戦でも終始ペースを崩すことなく優勝をもぎ取った。

自信をつけたことで、更にファインプレーのない選手となっていくに違いない。

一般新人戦無差別 準優勝 古波蔵慎



横浜北支部は小学生、中学生、女子部はコンスタントに入賞者を輩出しているが、一般部の入賞者が少ない。

そんな中、古波蔵が一般部で久しぶりの入賞を果たした。

以前からセンスのある組手スタイルで活躍を期待されていたが、試合では自分の力を出しきれずに敗退する機会が多かった。

力を出し切る精神的強さを身に着ける為、古波蔵はハードトレーニングと強豪支部への出稽古を己に課した。

今大会で初戦からアグレッシブに攻める姿から、以前のような力を出し切れずに敗退していた姿は想像できない。

苦難な道を進むほど強くなっていくことを知った古波蔵は、今後支部を牽引する選手に育っていくに違いない。

一般女子—55kg級 準優勝 平岡 琴



4月にニューヨーク支部から戻ってきた平岡が手堅く入賞。

上段、中段、下段とバランスの取れたコンビネーションで攻めることができるだけでなく、打たれ強さも兼ね備えている為、大きく崩れることはない。

だが平岡自身は今回の結果に満足していない。

自らにニューヨーク修行を課したのは、最も大きな舞台で頂点に立つため。

貪欲に試合に挑み続ける彼女は、頂点に立つまで止まるつもりはない。

中学2, 3年男子55kg超級 第3位 菅優作



今年なかなか勝ち星に恵まれなかった菅優作が結果を出した。
今までは高身長の手相手とのリーチ差に攻め込めないことがあったが、今大会ではフットワークを駆使してリーチ差を克服。
相手の死角にポジションを取りながら自分から積極的に攻撃を繰り出した。
菅の体格で最後まで動き続けられる体力は並大抵の稽古では身につけられない。
そして猛稽古を支える精神力が彼を更なる高みに引き上げるだろう。

✕ 閉じる